

令和元年6月25日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02630

研究課題名(和文) 言語ドキュメンテーションに基づくバントゥ諸語のミクロな類型的多様性の探究

研究課題名(英文) A typological approach to Bantu micro-variation: based on linguistic description and documentation

研究代表者

品川 大輔 (Shinagawa, Daisuke)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：80513712

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、個別言語の記述研究と、そこで得られた資料を基盤にした類型論的方法論による分析を両輪として、バントゥ諸語内部のミクロな類型的多様性 micro-variation に関して新たな知見をもたらすことを目指した。その成果として、前者に関しては、ウル語およびロンボ語に関する142の文法項目に関する記述資料の刊行、後者に関しては、とくに焦点表示と否定表示に関するパラメータの運動関係に関する研究について、国際学会において発表し、また学術誌に投稿中である(共同研究者との国際共著論文として)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

タンザニアの地方少数民族語であるウル語に関しては、これまで学術的な記述研究が行われておらず、本研究の成果として公刊した記述資料集は、この言語にとっての初めての体系的な文法記述である。また、ロンボ語については筆者による日本語の記述文法があるが、英文の記述資料はこれまで未公開であり、その意味で世界のバントゥ語学者がアクセスしやすい形で、これまでの資料的空白を埋めることになった。また、バントゥ諸語ミクロ類型論の研究は、世界的な研究ネットワークのもとで現在展開しているところであるが、本研究課題はその一部を担うものと位置づけられる。

研究成果の概要(英文)：This project aims to contribute new findings about micro-typological diversity, i.e., micro-variation, of the morphosyntax of the Bantu languages through a micro-parametric analysis on the descriptive data of Kilimanjaro Bantu languages obtained through fieldwork. A main contribution regarding data description is the publication of the descriptive data of 142 morphosyntactic parameters of Uru (E622A) and Rombo (E623). As for the data analysis, one of the main topics was inter-parametric covariation between focus marking and negation, and the result has been presented in several international conferences as well as submitted to an academic journal as an international joint-paper.

研究分野：言語学

キーワード：形態論 形態統語論 統語論 類型的多様性 バントゥ諸語 キリマンジャロ・バンツール諸語(チャガ語)

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究開始時までには、報告者は、タンザニア北東部、キリマンジャロ山麓を中心に話されるキリマンジャロ・バントウ語群 (Kilimanjaro Bantu languages, 以下 KB と略) に属する諸言語について、現地調査にもとづく記述研究を行ってきた。これら言語は、系統的にはニジェール・コンゴ語族、ベヌエ・コンゴ語派に属するバントウ諸語のうち、Guthrie (1967-71) の分類によればチャガ語群 (Chaga group, E60) に含まれ、語群内部における構造的多様性によって知られる (Nurse 2003)。

本課題開始時点までの (本課題に関わる) 主要な研究成果としては、(i) KB 諸言語の記述・ドキュメンテーション研究、および (ii) KB 内の構造的多様性に関する類型論的研究の二領域に大別される。(i) に関しては、博士論文として提出したルワ語 (Rwa あるいは Meru, Guthrie 分類を修正した Maho (2009) の分類番号で E621A, 以下同様) の動詞形態論を中心とした記述研究、およびロンボ語 (Rombo, E623) の文法スケッチ (『チャガ = ロンボ語 (Bantu E623) 文法スケッチ』) を代表的な業績として挙げることができる。両言語は、申請者の記述研究が現れるまで事実上の未記述言語であった。一方、(ii) に関する主たる業績としては、KB 内における TAM (Tense, Aspect and Mood) 表示体系に関する構造的多様性と言語間対応、さらにはその成果を展開する形で、類型論的なパラメータを設定することで類型間の相互関係の分析を試みた論考を、学術雑誌および国際学会で報告してきた。

また、研究開始初年度に、現在の所属先である東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (AA 研) に異動することとなった。これによって、AA 研の共同利用・共同研究課題「バントウ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究 (フェーズ 1)」に、より直接的に関わることとなり、本研究課題を遂行する上の相乗効果が期待される環境に置かれることになった。

Guthrie, M. 1967-71. *Comparative Bantu: An introduction to the comparative linguistics and prehistory of the Bantu languages*, London: Gregg Press

Maho, J. P. 2009. NUGL 2009. NUGL Online: The online version of the New Updated Guthrie List, a referential classification of the Bantu languages. Version dated 4 June, 2009. Downloaded from URL: <http://goto.glocalnet.net/mahopapers/nuglonline.pdf>

Nurse, D. 2003. Tense and aspect in Chaga, In *Annual Publication in African Linguistics*, No.1, Cologne: Rüdiger Köppe, pp. 69-90

2. 研究の目的

本研究課題は、個別言語の記述・ドキュメンテーション研究と、そこで得られた資料を基盤にした類型論的方法論による分析を両輪として、バントウ諸語内部のミクロな構造的類型的多様性—micro-variation—に関する知見を飛躍的に進展させ、その成果をバントウ諸語研究コミュニティのみならず言語類型論研究一般に向けて発信していくことを目的とする。遂行にあたっては、バントウ諸語 micro-variation 研究の世界的拠点であるロンドン大学 SOAS のプロジェクトチームと協働し、記述および分析対象言語の拡張を試みる。また、類型論的分析においては、SOAS プロジェクトにおける具体的なパラメータの検討に参画することで、この研究枠組み自体の精緻化に貢献するとともに、本研究課題独自のパラメータの設定も試み、それに基づく研究成果の発信を目指す。

3. 研究の方法

本研究では、3 か年の研究期間を 3 つに区切る形で、(1) 研究基盤の整備、(2) SOAS プロジェクトとの協働による研究推進、(3) 成果発信という 3 つのフェーズを研究計画として設定した。そして研究期間 2 年目の後半は、SOAS に滞在して上述のプロジェクトメンバーとの共同研究を進めた。

記述・ドキュメンテーション領域においては、第 1 フェーズにおいては KB を中心とした記述研究を行い、第 2 フェーズでは KB 以外の言語へと対象言語を拡張することを目論んでいたが、研究期間内にアップデートされた SOAS プロジェクトによるパラメータ・リスト (調査分析項目) が 142 という膨大な数に拡張されたこともあり、KB のロンボ語とウル語 (E622D) の調査に集中することとなった。

一方の類型論的分析の領域では、第 1 フェーズにおいて、本研究独自のものも含め、今後の分析に向けたパラメータ自体の検討を行い、その内容を、第 2 フェーズにおける SOAS プロジェクトでのパラメータの拡張およびそれを適用した分析に反映していくという計画を立て、概ねそのように実行した。とくに、2 年目の SOAS 滞在中に、焦点表示パラメータと否定に関するパラメータの連動関係に着目し、SOAS プロジェクトによって集積されたデータベースを活用することで、パラメータ間の co-variation について集中的に分析を進めた。

そして、最終年度である第 3 フェーズにおいて、両領域において得られた研究成果をとりまとめて、内外の研究者コミュニティに発信していった。以下、具体的な研究成果について整理する。

4. 研究成果

まず、記述・ドキュメンテーション領域においては、上述の AA 研共同利用・共同研究課題「バントゥ諸語のマイクロ・パリエーションの類型的研究(フェーズ1)」の成果出版物として、東部バントゥ諸語に属する12の言語の記述資料集を公刊した(以下の項目「5. 主な発表論文等」の〔図書-1〕に該当。以下同様に示す)。142の形態統語論的パラメータに関する網羅的なデータを収録したこの資料集において、報告者は、ウル語〔論文-1〕とロンボ語〔論文-2〕の記述資料を上梓した。また、同書には、AA 研プロジェクトの共同研究者であり、報告者のロンドン滞在中の受入研究者でもあった Lutz Marten 教授(SOAS)による序言(foreword)が収録されているが、これは、この研究成果が国際的な共同研究ネットワークに多くを負っていることを端的に示すものである。

一方の micro-variation に関する類型論的分析については、主に国際学会の場で、その成果を発信してきた。本研究課題の第2フェーズ段階、すなわち SOAS 滞在時に、KB に広く現れる焦点標識 *ni* に関するマイクロ類型論的分析について発表するとともに(〔学会発表〕-10)、それを発展させる形で焦点表示と主動詞否定構造に関するパラメータ連動に関する試論を、SOAS プロジェクトの最終研究会で発表した(〔学会発表〕-8)。さらには、否定表示形式に焦点を当てた国際言語学者会議における発表(〔学会発表〕-5)など、2018年のみで8つの研究発表(うち6つが国際学会・研究会におけるもの)を行った。

また、未公開のため以下のリストには含まれていないが、上述の KB の焦点表示に関する研究は“A micro-parametric approach to Focus marking *ni* in Kilimanjaro Bantu languages” というタイトルで、バントゥ諸語マイクロパリエーションに関する書籍(Marten et al. (eds.) *Current approaches to morphosyntactic variation in Bantu*, OUP)の章論文として投稿済み、また否定と焦点表示に関するパラメータの co-variation についても、Lutz Marten 氏との共著で査読誌に投稿済みである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

1. [Shinagawa, Daisuke](#), "Uru (E622D)", In [Shinagawa, D.](#) and Y. Abe (eds.) *Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu*, pp. 106-152
2. [Shinagawa, Daisuke](#), "Rombo (E623)", in Shinagawa, D. and Y. Abe (eds.) *Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu*, pp. 153-189

〔学会発表〕(計19件)

1. [Shinagawa, Daisuke](#), "Linguistic diversity and unity in Swahili contact varieties: a shared element not attested in "Swahili"", Paper read at SOAS and Beijing Foreign Studies University Joint Conference Diversity of Cultures and Languages in Asia and Africa, 査読なし, SOAS, University of London, 20181108
2. [Shinagawa, Daisuke](#), "*-ag in Kilimanjaro Bantu: its diachronic path and implications to micro-typology", Paper presented at the 9th World Congress of African Linguistics (第9回世界アフリカ言語学会議), 査読有り, Mohammed V University, Rabat, 20180825
3. [Shinagawa, Daisuke](#), "Notes on the distribution of relative constructions in Sheng: with special reference to -enye RC", Paper read at the 7th International Conference of Bantu Languages (第7回国際バントゥ諸語学会), 査読有り, The river club, Cape Town, 20180709
4. [Shinagawa, Daisuke](#) and Nico Nassenstein, "Toward a 'state of the art': Variation in Swahili, current approaches, trends and directions", Paper read at the 7th International Conference of Bantu Languages (第7回国際バントゥ諸語学会), 査読有り, The river club, Cape Town, 20180709
5. [Shinagawa, Daisuke](#), "Typological variation of negative particles in Chaga, Paper read at the 20th International Congress of Linguists", (第20回国際言語学者会議), 査読有り, Cape Town International Conference Center, 20180702
6. [品川大輔](#), 「接触スワヒリ語に見られる構造特徴」, AA 研共同利用・共同研究課題「スワヒリ語諸変種にみられる多様性とダイナミズムへのアプローチ」平成30年度第1回研究会, 査読なし, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 20180603
7. [品川大輔](#), 「ウル語(Bantu E622D)の否定標示」, 日本アフリカ学会第55回学術大会, 査読なし, 20180526, 北海道大学
8. [Shinagawa, Daisuke](#), "Micro-typological observation on negation marking systems in Chaga", Paper read at Morphosyntactic variation in Bantu: Typology, contact and change Workshop at SOAS, 査読なし, 20180327, SOAS, University of London
9. [Shinagawa, Daisuke](#), "On some typological characteristics and their group-internal variation in Kilimanjaro Bantu languages," Paper read at Linguistics Departmental Seminar Series, SOAS, University of London, 査読なし, 20171031, SOAS, University of London
10. [Shinagawa, Daisuke](#), "Microparametrizing *ni* in Kilimanjaro Bantu: A test case from Uru (and Rombo)", Paper read at Project meeting of "Morphosyntactic variation in Bantu: Typology, Contact

and Change”, 査読なし, 20171025, SOAS, University of London

11. 品川大輔, 「ロンボ語 (Bantu E623) の声調パターン試論」, AA 研共同利用・共同研究課題「アフリカ諸語における声調・アクセントの総合的研究」2017 年度第 1 回研究会, 査読なし, 20170723, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
12. 品川大輔, 「スワヒリ語を基盤とする都市混合言語における新たな文法特徴の創出」, 日本言語学会第 154 回学術大会, 査読有り, 20170624, 首都大学東京
13. Yoneda, Nobuko and Daisuke Shinagawa “Update of TUFUS/ILCAA project: Typological study of microvariation in Bantu languages (phase 1)”, paper read at Leverhulme Project Morphosyntactic variation in Bantu: Typology, contact and change Workshop at SOAS, 査読なし, 20170609, SOAS, University of London
14. 品川大輔, 「シェンの二つの流動性」, 日本アフリカ学会第 54 回学術大会, 査読なし, 20170520, 信州大学 (教育学部)
15. 品川大輔, 「キリマンジャロのこぼ—チャガ諸語の共時的多様性と分岐のプロセス」, 京都大学タンザニアフィールドステーションセミナー (第 18 回), 査読なし, 20170128, International School of Dar es Salaam, Dar es Salaam
16. 品川大輔, 「アフリカ都市言語研究の動向と都市言語の諸相—シェン (Sheng) を事例に—」, 日本アフリカ学会関西支部主催 2016 年度第 1 回若手研究会「表現する主体としてのアフリカの人々—日常生活の言語・文学・音楽—」, 査読なし, 20170107, 大阪大学
17. 品川大輔, 「ダルエスサラーム大学 Microvariation ワークショップ報告」, AA 研共同利用・共同研究課題「バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究 (フェーズ 1)」2016 年度第 2 回研究会, 査読なし, 20161217, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
18. 品川大輔, 「キリマンジャロ・バントゥ諸語記述研究の射程—マイクロバリエーション研究とその先」, AA 研フォーラム, 査読なし, 20160616, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
19. 品川大輔, 「マイクロバリエーションの事例研究: いくつかの具体例」, AA 研共同利用・共同研究課題「バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究 (フェーズ 1)」2016 年度第 1 回研究会, 査読なし, 20160417, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

〔図書〕(計 1 件)

1. Shinagawa, Daisuke and Yuko Abe (eds.) *Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu*, Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, pp. 439+ix

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

○取得状況 (計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。